

令和4年度

附属図書館活動報告書

東京大学附属図書館

## 目次

<b>1. 令和4年度の特記事項</b> .....	<b>1</b>
1.1 オープンアクセスおよびジャーナル問題への対応 .....	1
1.2 附属図書館特別展示の開催 .....	1
1.3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策への対応 .....	2
1.4 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み .....	3
1.5 「新駒場図書館(Ⅱ期棟)計画」の検討(駒場図書館) .....	5
1.6 ダイバーシティ&インクルージョン推進への取り組み .....	5
<b>2. 研究成果の発信、資料の電子化</b> .....	<b>7</b>
2.1 東京大学学術機関リポジトリ(UTokyo Repository) .....	7
2.2 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業 .....	7
2.3 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による資料電子化作業 .....	7
<b>3. 利用者サービス、ガイダンス、広報</b> .....	<b>9</b>
3.1 障害のある利用者(本学構成員)への資料電子化サービス .....	9
3.2 図書館ガイダンス、講習会等 .....	9
3.3 各館の広報 .....	11
3.4 キャンパス一般公開 .....	12
3.5 展示およびイベント企画 .....	13
<b>4. 資料の収集</b> .....	<b>21</b>
4.1 学習用図書 of 整備 .....	21
4.2 全学資料購入集中処理システムの着実な運用 .....	21
4.3 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備 .....	21
4.4 大型コレクション .....	21
<b>5. 資料の管理</b> .....	<b>22</b>
5.1 目録データの遡及入力事業 .....	22
5.2 自動書庫 .....	22

5.3	図書資産の実査.....	22
5.4	アジア研究図書館の整備.....	23
6.	業務管理.....	24
6.1	職員研修.....	24
6.2	学生協働.....	24
6.3	社会連携・地域貢献.....	25
6.4	教員著作物可視化事業との連携.....	26
6.5	学内他部署との連携.....	27
6.6	規則改正等.....	28
7.	附属図書館会議.....	29
8.	全図書館・室統計.....	30
8.1	職員数、蔵書数、利用件数.....	30
8.2	経年変化.....	31

# 1. 令和4年度の特記事項

## 1.1 オープンアクセスおよびジャーナル問題への対応

令和4年4月、図書行政商議会の下に「オープンアクセスおよびジャーナル問題検討ワーキンググループ」を設置し、転換契約を含む本学のオープンアクセス(以下、「OA」という。)およびジャーナル問題について検討した。同年9月に報告した「対応の方向性(まとめ)」では、研究分野や地域・言語等の違いに留意しつつ、本学でも購読契約から転換契約への移行を具体的に進める時期に来ているとの結論に至り、令和5年から令和7年の間、学術出版社3社(Oxford University Press, Springer Nature, Wiley)と学術誌の「転換契約」を締結し(Oxford University Pressは令和5年から令和6年の間)、令和5年1月より試行を開始した。令和4年12月には、本学研究者やURA・図書館職員等を対象に「『転換契約』による学術論文オープンアクセス出版説明会」を実施したほか、附属図書館ウェブサイト以案内ページ(学内限定)を開設し<sup>1</sup>、OA出版可能数、OA出版支援の詳細やQ&A等を掲載した。試行期間中に購読料との関係を整理し、費用負担のあり方等の今後の方向性を検討していく予定である。

## 1.2 附属図書館特別展示の開催

総合図書館展示スペースおよびオープンエリアを会場に、令和4年度附属図書館特別展示「テエベス百門の断面図—歿後100年記念 森鷗外旧蔵書展」<sup>2</sup>を企画実施した(会期:令和4年10月13日~11月28日)。特別展示は耐震改修工事のため平成26(2014)年以来中断されており、8年ぶりの開催であった。本展は新発見の鷗外自筆草稿を眼目として、初出展の資料も含め約100点を紹介したもので、学内外から1,100名を超える来場者があった。また、10月28日には、本展の展示指揮を務めた総合文化研究科・出口智之准教授を講師に迎え、記念講演会「テエベスの薨—鷗外文庫の深奥から」を対面・オンライン併用で開催し、学内外から265名の参加があった。

今回の特別展示での新たな取り組みとしては、文京区立森鷗外記念館との連携(展示資料を相互で紹介)、国立国会図書館が運用するジャパンサーチのギャラリー機能を使った電子展示の作成<sup>3</sup>、報道機関向け内覧会の実施(10月12日)、展示記念グッズ「そえぶみ箋」2種の作成(コミュニケーションセンターにて販売)が挙げられる。また、アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門(U-PARL)・永井正勝特任准教授が撮影した写真と解説による関連展示「木下杢太郎の見たテエベス」も同時に開催した。

---

<sup>1</sup> [https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/apc\\_guide](https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/apc_guide)

<sup>2</sup> <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/html/tenjikai/tenjikai2022/index.html>

<sup>3</sup> <https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-ogai2022>



### 1.3 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策への対応

令和 4 年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止対策が必要な状況は続いており、緊急事態宣言の発出やまん延防止等重点措置の適用はなかったものの、7月からは第7波、12月からは第8波と呼ばれる感染拡大の波を経験することになった。

東京大学では、年度当初に「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」(以下、「活動制限指針」という。)を更新し、感染拡大防止対策を実施しながら、研究・教育活動を続けてきた。附属図書館でも、コロナ禍の下で非対面形式による手続きにも対応できるように、令和 5 年 1 月 31 日付けて「図書館利用証及び利用者データ管理について(運用規準)」を改訂するなど、活動制限指針レベルの変更に対応しつつ、随時サービス内容等の見直しを行いながら業務を遂行した。

#### (1) 総合図書館

令和 4 年度当初は前年度からの対応を継続し、平日の開館時刻を 8 時 30 分から 9 時に繰り下げた上で、ほぼ通常開館時のサービスを行い、学外者の利用も予約制により実施した。令和 4 年 6 月 24 日(金)から本館閲覧席の間引きを解除し、11 月 1 日(火)からは東京大学構成員(教職員および学生)引率による教育目的・少人数(10 名程度)の学外者見学を再開するなど、利用制限を徐々に緩和した。

#### (2) 駒場図書館

令和 4 年 4 月より、駒場図書館の開館時間を学期中は平日 8 時 30 分~22 時、土日祝日 9 時~19 時とした。また 7 月および1~2 月の試験期間中は土日祝日も 9 時~20 時を開館時間とし、これにより一年間を通じて通常時と同等の開館時間となった。

学外者の入館制限緩和については、昨年度途中に入館可とした元教員と館長許可利用者に続いて、8月4日(木)から学外者(卒業生・修了生を含む)の入館を再開した。座席の間引きについては、昨年度中に全体の1/2までに回復していたが、4月1日(金)からはほぼ全席が利用できるようにした。これと同時に、昨年度まで利用停止にしていたグループ学習室も、上限6名として利用を再開した。また、10月4日(火)から食事不可の閲覧スペースとして利用再開した1階 Sky Loungeは、令和5年1月4日(水)から食事可とし、同 Sky Lounge内のウォータークーラーも水筒等への給水限定で使用可とした。

昨年度に引き続きカウンターでの対面接触を減らすため、自動貸出機によるセルフ貸出を推奨するとともに、返却箱設置とブックポスト24時間開放も継続して行った。

### **(3) 柏図書館**

柏図書館の開館時間は令和2年度中に通常に復していた(令和2年7月14日(火)より平日9時から21時、土曜10時から17時)。令和4年度当初は学外者の入館制限が残っていたが、感染状況がいったん緩和したため11月1日(火)より利用を再開した。学外者のうち入館証や柏図書館友の会会員証を持つ者についてはすでに入館が可能であったが、入館受付を平日17時までのみとする利用制限を続けた。なお、学外者はいずれの場合も柏図書館入館届を毎回提出し、遵守事項の確認と入退館時刻の把握をした。会話が可能なナレッジワークスタジオの利用は、10月3日(月)に再開した。入館時のマスク着用必須、消毒用アルコール設置、座席数の間引き、職員による館内消毒といった感染防止対策を継続して実施した。

## **1.4 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み**

### **(1) 総合図書館**

#### **プロジェクトボックス・防音ブースの利用時間拡大**

グループ学習に利用できるプロジェクトボックス(8室)、語学やプレゼンテーション等の発声練習が可能な防音ブース(4室)は、改修工事後の令和3年11月1日(月)にオープンした際には感染防止対策として利用時間を平日9時から17時まで、1回2時間までに制限していたが、令和4年6月6日(月)から利用時間を閉館時間(22時30分)までとし、同年7月23日(土)からは土日祝日も利用可能とした。予約時間は2時間限定としていたが、利用者が都合に合わせて柔軟に予約できるよう、令和5年2月17日(金)の利用分から、15分単位で最大3時間まで予約可能とした。

#### **館内無線 LAN の増強**

全学的な施策として無線 LAN の環境整備が行われている。令和4年度にはこの一環として総合図書館においても WiFi のアクセスポイントが大幅に増設され、館内全域で WiFi が使用可能となった。

## (2) 駒場図書館

### 館内無線 LAN の増強

令和 4 年 8 月に全館で WiFi アクセスポイント増設工事が行われたことにより WiFi 環境が改善された。かねてより学生から館内で WiFi がつながりにくい等の意見が寄せられていたが、館内のどのエリアでも比較的スムーズに WiFi に接続できるようになった。

### 法学部研究室図書室資料の搬送サービス

大学院総合文化研究科と大学院法学政治学研究科の間で覚書(令和 4 年 9 月 8 日付)を取り交わし、11 月 1 日(火)より総合文化研究科の教員、研究員、名誉教授、大学院生、教養学部学部学生に対して、法学部研究室図書室の一部の図書を駒場図書館に取寄せ可能とした。取寄せた図書の利用は駒場図書館内に限定されるものの、他キャンパスへの訪問利用や有料の学外貸借にかかる負担が軽減され、利便性が向上した。

### 「来館困難者に対する図書館資料等郵送サービス」の恒常化

図書館資料等郵送サービスは、令和 2 年 5 月 25 日(月)から 7 月 30 日(木)まで、コロナ禍の緊急対応として「学位論文執筆者で来館困難な本学大学院生、学部学生、館長許可利用者」を対象に、駒場図書館の所蔵資料およびその複写物を郵送する目的で開始された(送料は大学負担)。同年 11 月から送付対象物に他館から到着した複写物等を加え、送料は受益者負担でサービスを再開、更に令和 3 年 12 月 13 日(月)から翌年 3 月末まで、対象者を「仕事、感染症予防、負傷、病気等により来館困難な本学在籍者、名誉教授、館長許可利用者」に拡大する試行を経て、令和 4 年 4 月 1 日(金)から恒常的なサービスとして本運用を開始した。

### 複写サービスの改善

コピーコーナー付近の掲示物や文献複写申込書様式、関係する利用案内ウェブページなどを親しみやすくわかりやすいものにリニューアルし、公式キャラクター「こまとちゃん」の漫画で著作権等の利用ルールを解説するなど、著作権法の理解・順守促進に努めた。また、館内複写の際に提出が義務づけられている「文献複写申込書」のウェブフォームによる申請を令和 4 年 8 月 1 日(月)から開始した。

## (3) 柏図書館

### 柏キャンパス内図書配送サービスの本運用開始

令和 4 年 4 月から 6 月までの試行を経て、7 月から柏キャンパス内図書配送サービスの本運用を開始した。利用者は学内の図書館・室資料を柏キャンパス内のどの図書館・室でも返却が可能になるとともに、柏キャンパス内図書館・室資料をホームライブラリへ取寄せでの貸出が可能になる。柏キャンパス内の学生・教員にとって便利なサービスであり好評を得ていることに加え、従来の個々の宅配便配送(柏キャンパス内の図書館・室と他キャンパスの配送拠点図書館・室との相互の配送)と比べ、他キャンパスとの受け渡しを柏図書館に集約することで業務の効率化と配送経費の抑制を実現した。

## 留学生向けガイダンスビデオの作成

令和4年度秋入学の留学生向けに、国際化教育支援室柏支部の協力によりビデオ”Guidance on how to use Kashiwa Library”（英語音声、日本語字幕、中国語字幕選択可）を作成し、公開した。<sup>4</sup> ガイダンスの教材として活用している。

## 館内無線 LAN の整備

令和3年3月末にUTNET無線LAN接続サービスが終了した後は1階施設で本学の無線LANが使えなかったが、令和4年度末に全学的な施策として無線LANの環境整備が行われ、メディアホールなどの1階施設にWiFiが整備されたことにより、不便が解消した。また、2階閲覧室では個室閲覧室付近でWiFiが繋がりにくい場合があったが、ここにアクセスポイントが増設され接続が安定した。

## 1.5 「新駒場図書館（Ⅱ期棟）計画」の検討（駒場図書館）

現駒場図書館の開館（平成14年）直後から検討している「新駒場図書館（Ⅱ期棟）計画」について、拠点図書館の一つとしての機能強化のため、本学のPFI事業として実施することが認められ、増築に向けた具体的な検討を開始した。

この計画においては、図書館の情報提供体制や学術資産のアーカイブ機能を強化し学術資産の利活用を促進する【学術情報基盤の学際統合】、アクティブラーニングの刷新に対応しうるラーニング commons の新設を通じた【学知のハブの形成】を図るとともに、多目的スペースでは、図書館を通じて大学と社会との連携【持続可能な知の発展】を目指すことをコンセプトとしている。

また、これまで折に触れて寄せられてきた利用者からの要望（試験期間などに顕著になる閲覧席の不足、討論のできるグループ学習室の不足などの解消）も踏まえて検討する。

今後、PFI事業における実施方針等が公表される際に、事業計画地、施設配置の概要等も公表される予定である。

## 1.6 ダイバーシティ&インクルージョン推進への取り組み

令和4年6月、「東京大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」<sup>5</sup>が制定された。これを受け、附属図書館ではさまざまな取り組みを行った。

駒場図書館では、暫定的に運用していた子ども同伴での利用に関して、「東京大学駒場図書館及び東京大学大学院総合文化研究科図書館における子どもを同伴した学内者の利用に関する要項」を制定し、令和4年8月2日（火）より施行した。これは、研究と育児の両立を支援しつつ、対象者以外の利用者の研究と学習の環境維持を図るものである。

総合図書館、駒場図書館、柏図書館では、宣言の趣旨に則り、すべての学生・教職員が快適に利用できる図書館を目指していることを利用者に知らせるポスターを作成した。このポスターは図書館の利用にあたってサポートが必要な利用者へのサービス内容の周知にとどまらず、学生・教職員への宣言の啓発も目的としている。

<sup>4</sup> <https://www.youtube.com/watch?v=kRYzTVW6-YU>

<sup>5</sup> <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/diversity-inclusion.html>





あわせて、総合図書館、駒場図書館、柏図書館のウェブサイト「サポートが必要な方へ」というページを新設した<sup>6</sup>。ここには、エレベーターや多目的トイレ、バリアフリー優先席の場所が確認できるフロアマップ、子ども同伴利用者への案内、何らかの理由で来館が困難な利用者へ提供しているサービス等の情報をまとめている。

障害のある利用者（本学構成員）への資料電子化サービスなどのサービスは従来から引き続き提供している。（3.1 参照）

これらの活動について、附属図書館の広報誌『図書館の窓』Vol.61 No.1（令和5年3月31日発行）に特集ページ「東京大学附属図書館のダイバーシティ&インクルージョン」を掲載し、普及に努めている。<sup>7</sup>

<sup>6</sup> 総合図書館 <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/support>

駒場図書館 <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/user-guide/support>

柏図書館 <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/kashiwa/user-guide/support>

<sup>7</sup> 日本語版 [https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2023-03/kanpo\\_61-1\\_ja.pdf](https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2023-03/kanpo_61-1_ja.pdf)

英語版 [https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2023-03/kanpo\\_61-1\\_en.pdf](https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2023-03/kanpo_61-1_en.pdf)

## 2. 研究成果の発信、資料の電子化

### 2.1 東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)<sup>8</sup>

令和 4 年度は全体で 3,788 件のコンテンツ追加登録を行い、これにより総コンテンツ数が 51,530 件になった。登録コンテンツの内訳は、紀要・博士論文が中心である。紀要は 111 誌からなる 30,851 件の論文を公開しており、本学の研究成果の発信に貢献している。主として機関リポジトリを公開プラットフォームとして利用している紀要の掲載論文および本文または要約を公開している博士論文に対し DOI 付与を行っている。

### 2.2 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

平成 29 年度からスタートした東京大学デジタルアーカイブズ構築事業<sup>9</sup>は、令和 4 年度も附属図書館、文書館、総合研究博物館、情報基盤センターの各長などからなる「東京大学学術資産等アーカイブズ委員会」の下で実施され、公募により選定された 20 事業の取り組みが着実に進められた。

「東京大学学術資産等アーカイブズポータル」<sup>10</sup>は、学内の様々な部局がデジタル化し公開しているコレクションを横断的に検索できるウェブサイトとして令和元年 6 月に公開したが、令和 4 年度に新たに 4 つのコレクションを追加し、検索可能件数は合計 203,149 件となった。

東京大学『学内広報』に本事業の関連コラム「デジタル万華鏡 東大の多様な『学術資産』を再確認しよう」を連載するとともに、ジャパンサーチのギャラリー機能を活用し、コラムで紹介した資料の電子展示を行っている。<sup>11</sup>

また、令和 5 年 2 月 6 日(月)に学術資産アーカイブ化推進室主催のオンラインセミナー「デジタル資料の保存管理の実際」を開催した。デジタルアーカイブズ構築に伴い生成されるデジタル資料の保存をテーマとし、学内外から 375 名の参加者があった。

### 2.3 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による資料電子化作業

本学では、国文学研究資料館が実施する標記事業の拠点大学として、継続的に古典籍の電子化を行っている。令和 4 年度は、総合図書館が所蔵する「田中芳男文庫」「鷗外文庫」「鶚軒文庫」から合計 733 点の電子化を実施したほか、工学・情報理工学図書館所蔵の 1 点、理学図書館所蔵の 111 点、東洋文化研究所図書室所蔵の 2 点についても電子化を行った。加えて、令和 2 年度に続きマイクロフィッシュ版「連歌俳諧書集成」(総合図書館所蔵洒竹・竹冷・知十文庫)の「補遺の部」の電子化を実施し、これにより「連歌俳諧書集成」の電子化が完了した。このほか、令和 2

<sup>8</sup> <https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp>

<sup>9</sup> <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/archives-top>

<sup>10</sup> <https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/>

<sup>11</sup> <https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-digitalkaleidoscope>

年度に電子化を行った本学所蔵の古典籍および「連歌俳諧書集成」について、順次、国文学研究資料館が構築・運用する「新日本古典籍総合データベース」から公開された。<sup>12</sup>

---

<sup>12</sup> 「新日本古典籍総合データベース」は令和 5 年 3 月 1 日に「国書データベース」に統合。  
<https://kokusho.nijl.ac.jp/>

## 3. 利用者サービス、ガイダンス、広報

### 3.1 障害のある利用者（本学構成員）への資料電子化サービス

総合図書館、駒場図書館、柏図書館において、バリアフリー支援室の協力の下、視覚障害等により紙資料の利用が困難な本学構成員を対象とした資料電子化サービスを実施している。利用者は所属キャンパスの拠点図書館に電子化を依頼することになっており、令和4年度の電子化実施件数は総合図書館が69件（うちPDF形式57件、テキストデータ形式12件）であった（駒場図書館、柏図書館への依頼は無し）。

また、大学院生の高い専門性を学内業務に活かす「オンキャンパスジョブ」の制度を活用した修学支援事業に「障害のある学生への就学支援業務及び障害のある教職員への就業支援業務」として応募し、採択を受けた。当事業は駒場図書館を主担当として実施し、バリアフリー支援に関わる教員と電子化対象資料について協議を行い、内容が学術的に高度な資料3点のテキストデータ作成を行った。

### 3.2 図書館ガイダンス、講習会等

#### (1) 総合図書館

例年、情報システム部情報基盤課学術情報チーム学術情報リテラシー担当（以下、「学術情報リテラシー担当」という。）と協同で実施していたオリエンテーション（図書館ツアーと資料検索ガイダンス）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため引き続き中止とし、セルフツアーを開催した。

期間	内容	参加者数
令和4年 3月25日（金）～5月13日（金）	「総合図書館 セルフツアー」 （日本語・英語）	130名
9月30日（金）～10月26日（水）	「総合図書館 セルフツアー」 （日本語・英語）	31名

#### (2) 駒場図書館

ガイダンス等は、引き続きコロナ禍の影響により概ねオンライン（Zoom）で行った。公式YouTubeチャンネル「こまとちゃんねる」<sup>13</sup>で公開している各種動画（下表掲載）は、もともと対面の館内ツアー・講習会等の代替として提供していたものだが、いつでもどこでも学生が必要な時に視聴できるメリットは大きいと、今後も新規作成あるいは内容のアップデートを継続する方針とし、オンラインコンテンツ・館内イベント・掲示等の充実を図った。

新入生や新任教職員に役立つ情報をまとめたウェブページ「図書館活用ガイド」（令和3年度新設）<sup>14</sup>は、令和4年8月に目的別に再構成し、情報の重要度を付してわかりやすく改善した。このほか、図書館活用法・利用マナーに関する各種リーフレットや、レポート・論文執筆に役立つ情報を提供している。

<sup>13</sup> [https://www.youtube.com/channel/UcK0\\_jc2Iglh66CosK0xtgg](https://www.youtube.com/channel/UcK0_jc2Iglh66CosK0xtgg)

<sup>14</sup> <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/user-guide/campus/guide>

学生自身がマップや掲示物をヒントにクイズを解きながら館内を巡る「セルフツアー」は、春の日本語版に続き、秋入学の留学生向けに英語版を新たに制作し実施した。また、以下 2 件の授業支援を実施した。

① 教養学部必修授業「初年次ゼミナール文科(総合)」・「初年次ゼミナール理科」

学術情報リテラシー担当と連携して情報検索に関するテキスト教材を制作し、動画「情報検索 Web セミナー」等を補助教材として提供した。また、「初年次ゼミナール文科(総合)」では、第 2 回の授業内で 60 分のリアルタイムオンライン授業「文献検索ワークショップ」を実施した(令和 3 年度はオンデマンド動画配信)。

② 全学自由研究ゼミナール「こまとちゃんゼミナール」

平成 29 年度から教養教育高度化機構社会連携部門により開講されてきた全学自由研究ゼミナール「図書館の学び・活用・提案」は、令和 3 年度より「こまとちゃんゼミナール～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル」と名称を変えて開講されている。駒場図書館は、情報検索実習、レファレンスサービスに関する講義、駒場図書館バックヤードツアー、展示コーナーでの成果物展示など年間を通して授業支援を行った。

期間	内容	参加者数 または視聴回数
令和 4 年 4 月 1 日(金)～ 5 月 31 日(火)	駒場図書館セルフツアー (日本語/紙版・スマホ版)	162 名
4 月 1 日(金)～ 8 月 31 日(水)	駒場図書館バーチャルツアー (YouTube/日本語・英語/学内者向け利用案内)	287 回
4 月 5 日(火)	PEAK 後期課程進学予定者向けガイダンス (Zoom/10 分)	38 名
4 月 13 日(水)～ 4 月 26 日(火)	授業支援:初年次ゼミナール文科(総合)必修「文献 検索ワークショップ」 (リアルタイムオンライン授業 12 クラス)	1,335 名
4 月 14 日(木)	新入大学院留学生生活オリエンテーション (Zoom/日本語/20 分)	82 名
9 月 1 日(木)～ 令和 5 年 3 月 31 日(金)	KOMABA LIBRARY TOUR 施設編/資料編 (YouTube/日本語・英語/学内者向け利用案内)	674 回
9 月 15 日(木)～ 10 月 31 日(月)	駒場図書館セルフツアー (英語/紙版・スマホ版)	35 名
9 月 21 日(水)、 10 月 4 日(火)	留学生秋季オリエンテーションキャンパスツアー	182 名
9 月 28 日(水)	新入大学院留学生生活オリエンテーション	35 名

	(Zoom/日本語+英語/30分)	
9月30日(金)	教養学部進学内定者ガイダンス (資料提供のみ)	—
12月1日(木)～ 令和5年 3月31日(金)	自動貸出機の使い方 (YouTube/日本語・英語)	106回
通年	情報検索 Web セミナー「文献検索のコツ」Part1-5 (YouTube/8月全 Part 改訂)	1,483回
通年	3分 de こまとツアー (YouTube/日本語/学外者向け沿革、施設、 コレクション紹介)	268回
通年	授業支援:全学自由研究ゼミナール「こまとちゃんゼミナール」S セメスター・A セメスター各7回 (初回 Zoom、以降対面)	242名

### (3) 柏図書館

新入生ガイダンス(春入学4月、秋入学9月～11月)を、ZoomならびにZoomと対面のハイブリッド形式で実施した。留学生ガイダンスは、春入学向けは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とし資料配付のみを行った。秋入学向けにはZoomによるガイダンスを実施した。また、データベース講習会を、適宜、学術情報リテラシー担当と連携しながらZoomで実施した。

期間	内容	参加者数
春季・秋季	新領域創成科学研究科 新入生ガイダンス 計6回	62名(対面)
秋季	新領域創成科学研究科 留学生ガイダンス 計2回	約120名
春季・秋季	柏図書館セルフツアー 計2回	15名
春季・秋季	データベース講習会ほか 計8回	34名

### 3.3 各館の広報

附属図書館広報誌『図書館の窓』Vol.61 No.1<sup>15</sup>を発行した。内容は図書館の利用ガイド、電子リソース・文献管理ツールの活用方法、附属図書館におけるダイバーシティ&インクルージョンの取り組み等である。印刷版を主に令和5年度4月入学者・進学者へ配布したほか、PDF版を附属図書館ウェブサイトに掲載した。

<sup>15</sup> 日本語版 [https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2023-03/kanpo\\_61-1\\_ja.pdf](https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2023-03/kanpo_61-1_ja.pdf)  
英語版 [https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2023-03/kanpo\\_61-1\\_en.pdf](https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/2023-03/kanpo_61-1_en.pdf)

## (1) 総合図書館

総合図書館ウェブサイト<sup>16</sup>では、令和3年度に引き続き、コロナ禍による大学の入構制限に伴うサービス変更の案内ページ、郵送貸出申込ページ、学外者利用予約ページ等を設けている。

平成31年3月13日(水)に開設した総合図書館 Twitter アカウントから、令和4年度は約420回のツイートを行った。コロナ禍における東京大学の活動制限指針レベル変更に伴う図書館サービス変更の案内のほか、展示図書やデジタル化資料の紹介、イベントの案内、台風や積雪による開館時間変更の案内等に活用した。

## (2) 駒場図書館

駒場図書館では、初めて東京大学に所属する利用者が多いという特徴を踏まえ駒場図書館ウェブサイト内「図書館活用ガイド」<sup>17</sup>に新入生や新任教職員に役立つ情報をまとめている。

平成24年3月21日(水)に開設した駒場図書館公式 Twitter アカウントは令和4年3月末現在で約9,900フォロワーとなった。オンライン講習会や閉館日等に関するお知らせのほか、特に新しい利用者が増える4月、10月頃には図書館活用法やマナーに関するツイートを重点的に行っている。

駒場図書館は10月2日(日)に開館20周年を迎えたため、カウントダウンツイートを皮切りにイベント・常設展・20周年記念誌の広報も行った。なお、20周年を機に新設した常設展では、駒場図書館の活動やコレクションを紹介しており、他の展示企画が無い期間に公開している。

## (3) 柏図書館

柏図書館では、メールニュース「柏図書館からのお知らせ」の日本語版・英語版の両方を毎月(計12回)発行したほか、イベントや講習会の開催にあわせて臨時便を4回発行し、柏キャンパス内の教職員・学生向けに利用案内やイベントのお知らせを行った。

## 3.4 キャンパス一般公開

### (1) 総合図書館

オープンキャンパスは、令和2年度、3年度に引き続きオンライン形式となり、8月3日(水)～4日(木)に開催された。総合図書館はオンライン館内見学会を企画して参加し、展示・イベントワーキンググループで作成した総合図書館の紹介スライドショー『ようこそ総合図書館へ・2022』をYouTube上で公開した。

ホームカミングデイは対面・オンデマンド等を併用したハイブリッド形式で実施された。総合図書館では10月15日(土)に3年ぶりとなる事前予約制の館内見学ツアーを実施し、107名の参加者を得た。見学ツアーに参加できなかった来場者には、館内で開催中の特別展示(1.2参照)を案内した。また、23日(日)までの間、スライドショー『総合図書館バーチャルツアー・2022』をオンデマンドでの動画配信の形で公開した。

---

<sup>16</sup> <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general>

<sup>17</sup> <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/user-guide/campus/guide>

## (2) 駒場図書館

オンライン形式で実施されたホームカミングデイでは、駒場図書館の沿革・施設・コレクションを紹介する動画『3分 de こまとツアー』を作成し公開した。

## (3) 柏図書館

柏キャンパス一般公開は、10月21日（金）～28日（金）にオンラインで開催された（ただし、一部実地開催）。柏図書館が実施したイベントはいずれもオンライン形式で、以下のとおり。

期間	内容
令和4年 10月21日（金）～ 28日（金）  柏図書館テーマ 「知の交流を支える 図書館」	WINGS-PES Book Exhibition サステイナブルな未来を目指す若き研究者の卵たち 「プロアクティブ環境学国際卓越大学院プログラム（WINGS-PES）」および「グリーントランスフォーメーション(GX)を先導する高度人材育成（SPRING GX）」の大学院生と、プログラム担当教員によるおすすめ図書の紹介展示 なお、館内には実際の展示も行い、一般公開後も継続した
	デジタル基盤を作るということ ～国際標準化の現場から～ 6月14日（火）のサイエンスカフェの動画を公開 （ゲスト：慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 下農 淳司 特任講師）
	柏図書館自動書庫バーチャルツアー 自動書庫内部を動画で見学できるバーチャルツアー

## 3.5 展示およびイベント企画

### (1) 総合図書館

#### 展示

附属図書館特別展示については1.2を参照。そのほかの展示については、昨年度に引き続き、3階ホールでの展示を中心に実施した。

「東大研究者の本棚」は、東京大学に所属する研究者の知的な営みを「本」という切り口でたどるシリーズ企画である。令和4年度は第2回として荻部直附属図書館副館長、第3回として石原あえか総合文化研究科図書館長の展示を実施した。また、それぞれ関連イベントとしてハイブリッド方式のブックトークを開催し、展示図書を中心にさらに掘り下げた内容が語られた。

「Shelf of Wonder」は、学内の部局や学外の研究機関と連携し、その研究成果等を発信・紹介するシリーズ展示である。令和4年度はUTokyo Compass<sup>18</sup>と関連した複数部局の活動を取り上げた。シリーズ第2回では「UTokyo D&I キャンペーン 2022」<sup>19</sup>に併せて、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)関連展示を行った。この際、国立女性教育会館からテーマに沿った図書セ

<sup>18</sup> <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/utokyo-compass.html>

<sup>19</sup> <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/diversity-inclusion-2022.html>



ットの貸し出しを受けて展示した。第3回ではUTokyo Compassの柱の一つであるグリーントランスフォーメーション(GX)<sup>20</sup>関連展示を多数の部局の協力を得て開催している。

館内の研究部門や学内の部局にも展示場所を提供し、アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門(U-PARL)<sup>21</sup>の展示「アジアの資料をむすび、ひらく ―デジタルコレクションの可能性― 『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション』原資料展」を展示スペースで開催した。

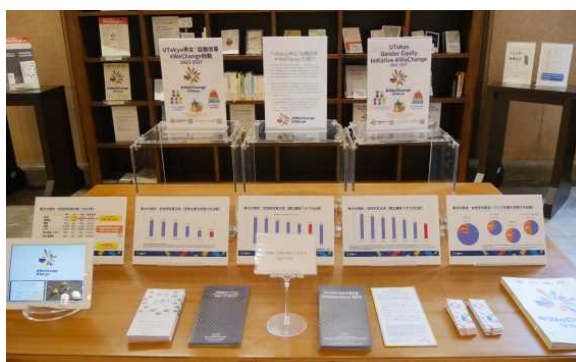
また、令和2年度に開始した常設コーナー「UTokyo Faculty Works」(東京大学の教員著作を展示)、「Shelf of UTokyo Press」(東京大学出版会との共同展示)、「Shelf of UTokyo COOP」(東京大学生協同組合との共同展示)を引き続き設置した。

このほか、大閲覧室前の平机でも学生による選書の成果「東大生が選んだ本」や、「東京大学而立賞」、「EUフレンドシップウィーク」展示を行った。

期間	場所	内容
常設展示 令和2年11月27日(金) ～	展示スペース	総合図書館の130年を振り返る   ～創立から震災復興まで
令和4年 5月10日(火)～ 9月21日(水)	3階ホール	東大研究者の本棚 第2回 図書館を読む～政治学者・苅部直の遍歴
6月14日(火)～ 9月30日(金)	3階ホール	Shelf of Wonder 第2回 ダイバーシティ&インクルージョン
10月13日(木)～ 11月28日(月)	展示スペース、 オープンエリア	附属図書館特別展示「テエベス百門の断面図―歿後100年記念 森鷗外旧蔵書展」
10月13日(木)～ 令和5年2月7日(火)	3階ホール	特別展関連企画 鷗外フェスト2022
令和5年 2月17日(金)～ 6月15日(木)	3階ホール	東大研究者の本棚 第3回 石原あえか教授図書展示 言葉の海を泳ぐ
3月6日(月)～ 4月21日(金)	展示スペース	アジアの資料をむすび、ひらく ―デジタルコレクションの可能性― 「東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション」原資料展 【アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門(U-PARL)主催】
3月15日(水)～ 6月1日(木)	3階ホール	Shelf of Wonder 第3回 グリーントランスフォーメーション(GX)関連展示

<sup>20</sup> <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/actions/gx.html>

<sup>21</sup> <https://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/>



Shelf of Wonder

## 講演会・セミナー等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講演会・イベントの多くはオンライン形式で開催した。

期間	内容	参加者数
令和4年 5月20日(金)	東京大学総合図書館シリーズイベント「東大研究者の本棚」 苅部直教授ブックトーク 「図書館を読む ～政治学者・苅部直の遍歴」(オンライン開催)	90名
10月28日(金)	附属図書館特別展示記念講演会「テエベスの薨—鷗外文庫の深奥から」(ハイブリッド開催)	204名
11月17日(木)	大学総合教育研究センター、附属図書館主催 第19回ミニレクチャプログラム(オンライン開催)	80名
令和5年 2月6日(月)	第6回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー 「デジタル資料の保存管理の実際」(オンライン開催)	375名
3月14日(火)	東京大学総合図書館シリーズイベント「東大研究者の本棚」 石原あえか教授ブックトーク 「言葉の海を泳ぐ」(ハイブリッド開催)	103名
3月17日(金)	大学総合教育研究センター、附属図書館主催 第20回ミニレクチャプログラム(オンライン開催)	62名

東京大学総合図書館シリーズイベント「東大研究者の本棚」Part 3  
**図書館を読む**  
 ~政治学者・菊部直の遍歴

2022年5月20日(金) 15:00~16:30  
 Zoomによるオンライン開催  
 ・アーカイブ配信あり(申込者限定)

お申込み：事前予約が必要です  
 ・申込書・申込書印刷用紙を  
 ・当日のアラミス決済申込時にご案内します

申込み方法やブックトークの詳細は総合図書館ウェブサイトをご覧ください  
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/library/general/event/20220426>

**菊部 直 Karube Naoko**  
 東京大学大学院法学政治学研究科・法学部教授  
 東京大学大学院法学政治学研究科を修了後、同校教授を経て2006年より現職。専門は日本政治思想史。2021年4月より現職図書館館長。

主要著作：『丸山眞実—リベラリストの肖像—』(岩波新書、2006年)、『原点としての戦後—政治思想史と現代—』(学芸春秋、2020年)ほか多数。

【総合図書館ホールでの図書展示について】  
 5月10日から総合図書館3階ホールで菊部直先生の図書展示を行います。政治思想史研究家としての菊部直先生は、その著書に込められた思い、図書館とのかかわりを通じて、その政治思想史を通じて、学ぶことの意味を問いかけ、その思いを届けていきます。

【お問い合わせ】 総合図書館 展示・イベントWG  
[teniwaka\\_event\\_group@ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:teniwaka_event_group@ecc.u-tokyo.ac.jp)

東京大学総合図書館シリーズイベント「東大研究者の本棚」Part 3  
**ブックトーク**  
**言葉の海を泳ぐ**

石原あえか先生が、これまでどのような本に出会い、またどのように「言葉の海」を深く泳いできたのかを語るブックトークです。

2023年3月14日(火)  
 15:00~16:30  
 ハイブリッド方式での開催  
 (1)会場参加  
 会場：総合図書館 大会議室  
 (2)オンライン参加  
 オンライン参加者には事前予約が必須です

申し込み方法やブックトークの詳細は総合図書館ウェブサイトをご覧ください  
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/library/general/event/20220214>  
 【イベントメール】

**石原あえか Aeka ISHIHARA**  
 東京大学大学院総合文化研究科教授・同研究科図書館長

ドイツ・ベルリン大学の言語学専攻を卒業したMolise auf der Weide (ツェルツェル) 博士は、Gereke Albrecht von Wangen (ツェルツェル) 博士と結婚し、結婚後、東京大学に在籍し、言語学専攻の教授として勤務しています。専門は「言語学」としてのドイツ学を中心とし、科学史の書物も扱っています。近年は「言語学」としてのドイツ学を中心とし、科学史の書物も扱っています。近年は「言語学」としてのドイツ学を中心とし、科学史の書物も扱っています。

【総合図書館3階ホールで関連展示を行います】  
 総合図書館3階ホールで、菊部直先生と石原あえか先生の図書展示を行います。菊部直先生は、その著書に込められた思い、図書館とのかかわりを通じて、その政治思想史を通じて、学ぶことの意味を問いかけ、その思いを届けていきます。

【主催】 東京大学総合図書館 【お問い合わせ】 総合図書館 展示・イベントWG  
[teniwaka\\_event\\_group@ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:teniwaka_event_group@ecc.u-tokyo.ac.jp)

## (2) 駒場図書館

先述の3.3「各館の広報」でも報告のとおり、令和4年10月2日の駒場図書館開館20周年に伴い、記念事業として、Twitterでのカウントダウン、オリジナルブックカバーのプレゼント企画を実施し、駒場図書館の活動やコレクションを紹介する常設展示を開始した。駒場図書館ウェブサイト上にはイベントページを公開した他、「東京大学駒場図書館開館20周年記念誌」を発行した。<sup>22</sup>

これに関連して、「教養学部報」(第641号)に石田淳駒場図書館長と石原あえか大学院総合文化研究科図書館長による記事「駒場図書館 二〇周年を祝して」を掲載した。

## 展示

期間	内容
令和4年 4月1日(金)~ 5月31日(火)	みにつけよう!アカデミックスキルズ(1階カウンター前) ※新入生歓迎企画「Lib <sup>3</sup> (リブキューブ)」の一環
4月22日(金)~ 5月6日(金)	駒場図書館から新入生へ あれこれルール展 ※新入生歓迎企画「Lib <sup>3</sup> (リブキューブ)」の一環
5月6日(金)~ 5月20日(金)	進学選択応援コーナー(教養学部統合自然科学科)
5月23日(月)~ 6月10日(金)	「駒場生が東大のe-bookをレビューしてみた!」パネル展示 ※新入生歓迎企画「Lib <sup>3</sup> (リブキューブ)」の一環
7月~	駒場生が東大のe-bookをレビューしてみた!~e-bookレビュー展示~(1階新着図書コーナー)
7月14日(木)~ 7月28日(木)	こまちゃんゼミナール ~駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル成果発表展示
7月29日(金)~ 8月19日(金)	#東大ばてゼミこと「ボーカロイド音楽論」ってなに?

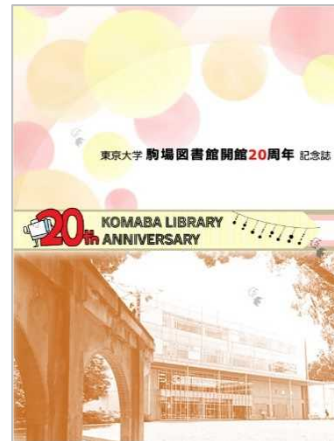
<sup>22</sup> <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/komaba/event/20220921>

9月28日(水)～	常設展「こまとちゃんと知の遺産」 *他の展示期間中は縮小または休止
11月10日(木)～ 11月28日(月)	Displaced:「難民」と私(東京大学 UNiTe)
令和5年1月12日(木)～ 2月2日(木)	こまとちゃんゼミナール ～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報 検索・収集・発信スキル成果発表展示



## イベント等

期間	内容
令和4年 4月1日(金)～ 5月31日(火)	新入生歓迎企画「Lib <sup>3</sup> (リブキューブ)」
9月21日(水)～	駒場図書館開館20周年記念事業 ・20周年カウントダウン Tweet ・オリジナルブックカバープレゼント ・常設展「こまとちゃんと知の遺産」の新設 ・『東京大学駒場図書館開館20周年記念誌』発行 (令和5年2月1日)
10月16日(日)～ 10月24日(月)	オンデマンド配信『3分deこまとツアー』 (東京大学ホームカミングデー)
令和5年 2月10日(金)	東京大学ヒューマンティーズセンター(HMC) 第86回オープンセミナー「荻生徂徠『絶句解』の謎を解く」 (講演:高山大毅准教授)を共催
3月14日(火)	東京大学総合図書館シリーズイベント「東大研究者の本棚」 石原あえか教授ブックトーク「言葉の海を泳ぐ」を総合図書館と共催



### (3) 柏図書館

#### 展示

期間	内容
令和2年3月～ 令和4年9月	第17回企画展示「中学生、学会をつくる」 (令和2年度末から継続)
令和4年 3月～9月	第21回企画展示「科学するうたごころ 歌作る科学のこころ～ 本でめぐる坂井修一の世界～」 (企画・制作：総合図書館 展示・イベントWG)
6月～9月 令和5年1月～3月	東大生の本棚(2回)
7月～9月	東京大学建築構成材デザイン工学(AGC 旭硝子)寄付講座完結展 「森に棲む月に棲む建築構造デザイン」
9月～令和5年1月	WINGS-PES Book Exhibition 「サステイナブルな未来を目指す若き研究者の卵たち」 (協力：プロアクティブ環境学国際卓越大学院プログラム(WINGS-PES))
10月～令和5年3月	第22回企画展示「国立情報学研究所 - 未来価値を創成する情報学研究 × 大学・研究機関を支える学術情報基盤」 (協力：同研究所)
10月～令和5年3月	第23回企画展示「新領域創成科学研究科附属サステイナブル社会デザインセンター」 (協力：同センター)
2月～令和5年3月	Display of Books for International Students (協力：国際化教育支援室柏支部)



## イベント等

期間	内容
令和4年 6月14日（火）	第27回サイエンスカフェ 「デジタル基盤を作るといふこと ~ 国際標準化の現場から~」 下農 淳司（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任講師） ※会場開催およびライブ配信
11月15日（火）	第28回サイエンスカフェ 「デジタルと、なにか」 山形 巧哉（山形巧哉事務所 代表、(一社)コード・フォー・ジャパン） ※会場開催およびライブ配信
11月18日（金）	英語落語鑑賞会 (主催:三井ボランティアネットワーク事業団、共催:国際化教育支援室柏支部、柏図書館)
令和5年 1月16日（月）	第24回わくわくミニコンサート (柏図書館、柏図書館友の会共催)

Kashiwa Library events 2022  
東京大学柏図書館イベントシリーズ2022

第27回 柏図書館サイエンスカフェ  
Kashiwa Library Science Café #27

### デジタル基盤を作ること ～国際標準化の現場から～

しもの まつし  
ゲスト **下農 淳司** 先生  
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任講師  
(元・東京大学大学院情報学域研究カブリ研特別准教授(研究員))

カフェホスト **大島 義人** 教授  
東京大学柏図書館長  
情報学総合科学センター

日常前に活用されるようになったデジタル基盤、ニュースサイトや動画配信、またスマホアプリなどさまざまな形で活用されていますが、その裏側ではさまざまな国際標準基盤が組み合わさって実現されています。地上放送などのボタンを押したときに表示される画面はウェブ技術を基盤として構築されています。最近話題のメタバースもいくつかの国際標準を利用することで日本国外でも通用するように作られています。このように利用しているもの背後はあまり気にすることがない標準化の世界を見てみたい方必見です。

- 会場でのご参加は、ライブ配信も実施いたします。
- 会場での参加には、お申し込みが必要です。
- 当日、当日の模様を録画した動画を配信予定しています。
- お申し込み方法など、詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/Library/kashiwa/event/20220614/>

**6/14 (火) 16:00～17:00**  
※ 開場 15:45

会場：柏図書館1階セミナー室2

定員：10名(先着順) ※ 懇話ライブ配信あり

**参加無料**

主催：東京大学柏図書館  
後援：東京大学柏図書館読友の会

お問い合わせ  
Tel: 04-7136-4224 E-mail: kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp  
URL: <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/Library/kashiwa/>

Kashiwa Library events 2022  
東京大学柏図書館イベントシリーズ2022

第28回 柏図書館サイエンスカフェ  
Kashiwa Library Science Café #28

### デジタルと、なにか

やまがた たくや  
ゲスト **山形 巧哉** さん **リモート参加**  
山形県産業情報代表  
一般社団法人コード・フォー・ジャパン

カフェホスト **大島 義人** 教授  
東京大学柏図書館長  
情報学総合科学センター

今回のサイエンスカフェは、地方自治体(北見県青柳町)でオープンデータやデジタルトランスフォーメーションに取り組まれている山形巧哉さんをお招きします。地方自治体のオープンデータへの取り組みがどのような状況であり、どのように活用できるか、例えばビジネスで現場をやまづくりまよぶ学生になって、どのように活用されるか、デジタルトランスフォーメーションが市民や自治体のサービスをどのように変え、人々、特に若年層や高齢者がどのように暮らしやすくなるか、といった、デジタルとそこから生まれる「なにか」のお話を伺います。ご期待ください。

- 会場でのご参加は、ライブ配信も実施いたします。
- 会場での参加には、お申し込みが必要です。
- 当日、当日の模様を録画した動画を配信予定しています。
- お申し込み方法など、詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/Library/kashiwa/event/20221105/>

**11/15(火) 16:00～17:00**  
※ 開場 15:45

会場：柏図書館1階コミュニティサロン

定員：10名(先着順) ※ 懇話ライブ配信あり

**参加無料**

主催：東京大学柏図書館  
後援：東京大学柏図書館読友の会

お問い合わせ  
Tel: 04-7136-4224 E-mail: kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp  
URL: <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/Library/kashiwa/>

### Rakugo in English

ADMISSION FREE 入場無料

## 英語落語

1. What's a boy? 英語落語  
Makin' A Lily
2. Short stories (1) Lily
3. Jugemu 酒問屋  
Goroshi
4. A smart boy 自由落語  
Kishio
- Intermission 参入---
5. Like father, like son  
親の如く  
Wise
6. Tanshiro 談笑集  
Fukushima
7. A man in a hurry  
はらやま  
Saitohke

**November 18 (Fri) 17:00-19:00**  
Media Hall, Kashiwa Library, UTokyo

主催：三井物産文化財団のつどい事務局 | Trusee Volunteer Network Center  
共催：東京大学 国際教育推進協議会事務局  
UTokyo International Education Support Office, Kashiwa Branch (KIO)  
後援：東京大学柏図書館 | Kashiwa Branch | 10/18  
TEL: 04-7136-4224 | [kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp)

申し込み：東京大学 国際教育推進協議会事務局 | Trusee Volunteer Network Center  
E-mail: [trusee@trusee.or.jp](mailto:trusee@trusee.or.jp) | [trusee@trusee.or.jp](mailto:trusee@trusee.or.jp)

第24回

### わくわくミニコンサート

2023年 1月16日(月)  
17:30 ~ 19:30 (開7学卒) / 17:15 開場

会場  
東京大学柏キャンパス 柏図書館メディアホール

みなさまお話しあわせの上  
どうぞご来場ください

(予約不要・入場無料・入退場自由)

1. KIO 編 (10分)  
1.1. 1st (17:30-17:45) 参加費 0円 (5歳未満は無料)  
1.2. 2nd (17:45-18:00) 参加費 0円 (5歳未満は無料)

2. KIO 編 (10分)  
2.1. 1st (17:30-17:45) 参加費 0円 (5歳未満は無料)  
2.2. 2nd (17:45-18:00) 参加費 0円 (5歳未満は無料)

3. 大友 康子 (10分)  
3.1. 1st (17:30-17:45) 参加費 0円 (5歳未満は無料)  
3.2. 2nd (17:45-18:00) 参加費 0円 (5歳未満は無料)

4. 大友 康子 (10分)  
4.1. 1st (17:30-17:45) 参加費 0円 (5歳未満は無料)  
4.2. 2nd (17:45-18:00) 参加費 0円 (5歳未満は無料)

5. 大友 康子 (10分)  
5.1. 1st (17:30-17:45) 参加費 0円 (5歳未満は無料)  
5.2. 2nd (17:45-18:00) 参加費 0円 (5歳未満は無料)

6. 大友 康子 (10分)  
6.1. 1st (17:30-17:45) 参加費 0円 (5歳未満は無料)  
6.2. 2nd (17:45-18:00) 参加費 0円 (5歳未満は無料)

7. 大友 康子 (10分)  
7.1. 1st (17:30-17:45) 参加費 0円 (5歳未満は無料)  
7.2. 2nd (17:45-18:00) 参加費 0円 (5歳未満は無料)

東京大学柏図書館 Tel: 04-7136-4224  
Kashiwa Branch | 10/18 | [kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp)  
TEL: 04-7136-4224 | [kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp)

## 4. 資料の収集

### 4.1 学習用図書整備

平成 20 年度から恒常的に措置されている学習基盤経費により、今年度は総合・駒場・柏図書館で合計 10,957 冊(総合:5,283 冊、駒場:4,501 冊、柏:1,173 冊)の学習用図書を購入した。図書の選定に際しては、教員からの推薦、図書館職員による選定のほか、学生自身の観点を生かすため、ジュニア・スタッフによる選書を実施している。また、留学生向けの資料購入も別途行っており、総合図書館では 13 冊、柏図書館では 64 冊の図書を購入した。このほか、駒場図書館では平成 22 年度から継続して東大駒場友の会から学生向けの図書の寄贈を受けており、今年度は 312 冊が寄贈された。

また、和書の電子書籍については、シラバス掲載タイトルの購入など、積極的に整備を進め、6,711 タイトルが利用可能となっている。

### 4.2 全学資料購入集中処理システムの着実な運用

経費節減と事務の効率化を図ることを目的として、図書資料を全学的に共同購入するシステムを平成 16 年度から運用している。第 1 ステージ(図書館・室を通して購入する図書資料)と第 2 ステージ(教員等が各部局の会計担当を通して直接購入する図書資料)をあわせた令和 4 年度の取扱総額は約 2 億 4,500 万円であり、書店への支払いの集中化・一元化により約 1,360 万円の図書購入費を節約することができた。

### 4.3 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備

平成 18 年度に学内施策として合意された「全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備」の制度は、令和 3 年度から第 4 期に入った(令和 7 年度まで)。

この制度に基づき、令和 4 年度は国内雑誌・外国雑誌(冊子)3,051 タイトル、電子ジャーナル 12,967 タイトル、データベース 70 点を契約し、学習・教育研究活動に必要な学術情報を安定的に供給した。これらの契約にかかる事務処理は総合図書館が一括して執り行い、学内の契約・支払い業務の効率化も同時に図っている。

### 4.4 大型コレクション

全学共通経費の大型コレクションの収集対象として、以下の資料を選定した。

- (1) Early European Books Collection 7  
(近世ヨーロッパ書籍集成データベース - コレクション 7)
- (2) The Times Educational Supplement Historical Archive, 1910-2000  
(『タイムズ教育新聞(TES)』歴史アーカイブ 1910-2000 年)
- (3) Nineteenth Century Collections Online: Maps and Travel Literature  
(19 世紀史料集成 地図と紀行文学)



## 5. 資料の管理

### 5.1 目録データの遡及入力事業

附属図書館では、オンライン蔵書検索システム(OPAC)が導入される以前の紙の目録カードで整理されていた全学の図書について、遡及的に目録データを入力することによって、オンラインで検索できるようにする事業を10年計画で進めている。

平成27年度から開始した第3期全学遡及入力計画では、令和元年度までの前半5年間は、国文学研究資料館が中心となって実施する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に伴う「新日本古典籍総合データベース」<sup>23</sup>の構築や東京大学新図書館計画を踏まえて総合図書館所蔵資料を優先して行った。今年度は、令和元年度に行った第3期全学遡及入力計画の後半5年間への参加希望調査に基づき、法学政治学研究科、農学生命科学研究科、総合文化研究科、東洋文化研究所所蔵の和古書・漢籍・和書・洋書等の入力を実施した。合計で当初約34,000冊の目録作成を目標とし、約35,200冊(うち総合図書館は約19,100冊)のデータ入力を達成した。

### 5.2 自動書庫

#### (1) 人文社会科学系学術雑誌の集中化(総合図書館)

令和4年度は、令和3年度に実施した初期入庫移管対象調査に基づいて決定したタイトルを対象に、部局が所蔵する人文社会科学系製本雑誌の移管を実施した。法学部研究室図書室、農学生命科学図書館、経済学図書館、東洋文化研究所図書室、社会科学研究所図書室、史料編纂所図書室の6図書館・室から、1,320タイトル、16,966冊を移管し、自動書庫に収納した。

#### (2) 自然科学系学術雑誌の集中化(柏図書館)

令和4年度は、総合図書館、法学部研究室図書室、医学図書館、工学・情報理工学図書館(4専攻)、理学図書館、経済学図書館、駒場図書館、医科学研究所図書室、物性研究所図書室、大気海洋研究所図書室の13図書館・室から、自然科学系学術雑誌のバックナンバー5,296冊を移管し自動書庫に収納した。現在、自動書庫には約40万冊が収納されており、PDF閲覧サービスを通じて全学の利用に供されている。

### 5.3 図書資産の実査

#### (1) 総合図書館

総合図書館の図書資産実査は、10年で全資料を一巡する計画で順次実施している。令和4年度は第2期計画の8年目にあたり、保存書庫内に配架されている洋図書(分類G・H・J・K・L)と、令和3年度実査時未確認資料37冊を実査の対象とした。作業の結果、実査対象49,622冊のうち不明資料は14冊であった。また、令和3年度不明資料37冊については7冊の所在を確認できたものの残る30冊については依然不明であったため、除籍手続きをとることとした。

---

<sup>23</sup> 「新日本古典籍総合データベース」は令和5年3月1日に「国書データベース」に統合。

<https://kokusho.nijl.ac.jp/>

## (2) 駒場図書館

令和4年度は、保存書庫資料計26,079冊と不明図書135冊を対象として実施した。その結果、21冊が不明であったため、令和5年度に再調査を行うこととした。

また、以前より不明であった資料183冊について現物調査を行った結果、176冊は依然として不明であったため、調査不十分、消耗品および過去に除却済の計43冊を除いた133冊を亡失資料として除籍手続きを行った。

## (3) 柏図書館

令和4年度は、分類記号が470から599までの開架図書17,532冊を対象に、12月に実査を実施した。その結果3冊が不明であったため、令和5年度に再調査を行うこととした。また、令和3年度の不明資料13冊について併せて再調査を行った結果、2冊が確認できた。確認できなかった11冊については除籍手続きを行った。

## 5.4 アジア研究図書館の整備

令和4年度は、令和3年度から継続して自動書庫への入庫を前提とした部局所蔵資料の移管作業を行った。

年度途中で、開架書架の東アジアエリア、西アジアエリアの収容率が限界となったため、部局移管資料から約900冊を自動書庫へ移動した。今後、開架資料の自動書庫への移動については、移動対象の基準について検討を行う予定である。

令和4年度の資料受入冊数は、部局からの移管分が3,251冊、購入分が547冊、寄贈分が3,149冊(部局移管のうち未登録資料を含む)で合計6,947冊であった。これにより3月末時点でアジア研究図書館の蔵書冊数は56,648冊(うち自動書庫入庫冊数は13,147冊、開架図書冊数は43,501冊)となった。

さらに令和5年度に向けた移管希望調査を行った。

## 6. 業務管理

### 6.1 職員研修

附属図書館研修プロジェクトでは、業務に必要な知識を習得し、効率化・省力化を図るためのスキルを身に付けた人材を効果的に育成していくため、毎年、業務のニーズにあった目的別研修を企画している。

令和4年度は、情報システム部情報基盤課学術情報チームの全面的な協力を得て、ICT人材を育成するための研修プログラムを実施した。

期間	内容	参加者数
令和4年 9月14日(水)・22日(木)	デジタル資料の公開を体験する! (集合開催)	4名
10月13日(木)	新任図書館システム担当のトラブル解決日誌 (オンライン開催)	31名
12月15日(木)	Zoomミーティングで講習会をしてみよう (ハイブリッド開催)	6名

また、コロナ禍により従来から開催されてきた学内外の研修がオンライン開催になったり、様々なシンポジウムやセミナー等がオンラインで開催されるなど、研修等への参加機会が増えていることもあり、国立大学図書館協会や国立情報学研究所などの関係機関の主催事業をはじめとする学内外の研修情報について附属図書館職員への周知を積極的に行った。

### 6.2 学生協働

#### (1)ジュニア・スタッフ

東京大学では、大学の様々な活動に学生が積極的に参画することを奨励するために、意欲ある学部学生を「ジュニア・スタッフ」に採用し奨励金を支給する制度を実施しており、附属図書館でも活用している。

総合図書館では、令和4年度は6月から3月まで活動を行った。学生から17名を採用し、返却図書の配架、書架整理、新着図書の装備、学生用図書の選書等の活動を行った。選書により購入した図書は、「東大生の本棚 2022 Autumn」「東大生の本棚 2023 Spring」として3階ホールに展示した。展示にあたっては、自分が選書した中で特におすすめする図書のPOPを各自作成したほか、展示のための装備や展示作業も行った。この展示に合わせて総合図書館ウェブサイト上にブックログ(仮想本棚サービス)<sup>24</sup>を設置し、ブックログ上でも同内容の展示を実施した。

駒場図書館ではジュニア・スタッフ29名を採用し、学生用図書の選書、69点の電子書籍レビュー作成、蔵書点検と狭隘化解消のための資料移動作業、マイクロ資料劣化調査、新入生への配布資料準備および入学諸手続補助等の活動を行った。また、作成されたレビューを基に、電子書籍レビューの個別展示を9回実施した。

柏図書館では、令和4年度は実施しなかった。

<sup>24</sup> <https://booklog.jp/users/utokyogenlib/users/utokyogenlib>

## (2) オンキャンパスジョブ

令和 4 年度は、オンキャンパスジョブに 2 件応募し、いずれも採択を受け、以下のとおり 2 事業を実施することができた。

- ① 障害のある構成員のための資料電子化業務(3.1 参照)
- ② アジア研究図書館におけるアジア特殊言語の蔵書整理

アジア研究図書館では、収集資料の中にアジアの諸言語で記述されているものが多く含まれるため、これらの整理のために、各言語や専門分野の知識を必要とする。そこで、専門知識を有する大学院学生の協力を得るべく、オンキャンパスジョブ制度を活用した。学生 4 名(博士課程 2 名、修士課程 2 名)の活動により、ユネスコ・アジア文化センターから寄贈された識字教育資料のうち、フィリピン、マレーシア、ベトナム、ラオス、インドネシア、バングラデシュ、インド、ネパール、パプア・ニューギニアの諸言語の整理を進め、『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』第 2 巻、第 3 巻として刊行できた。<sup>25</sup>

柏図書館では、「オンキャンパスジョブを活用した修学支援事業」により 1 名の大学院学生を夜間・土曜のカウンター業務に増員し、館内設備・機器の利用支援を強化した。

## 6.3 社会連携・地域貢献

### (1) 所蔵資料の出陳(総合図書館・駒場図書館)

附属図書館では、全国の美術館・博物館等が企画する展覧会への出陳依頼があった際に、所蔵資料の貸出(出陳)を行っている。令和 4 年度は、総合図書館では 9 機関へ 52 点、駒場図書館では 2 機関へ 9 点の資料を貸し出した。

### (2) 図書館ラウンジのネーミングプランに関する協定の締結(駒場図書館)

駒場キャンパスのより一層の教育研究環境の整備を目的として本学が公募した駒場図書館 1 階ラウンジのネーミングプランに Sky 株式会社が協賛し、ラウンジの愛称について定める協定を締結した。期間は令和 4 年 12 月から令和 9 年 11 月まで、名称は「Sky Lounge」に決定した。協賛金はキャンパス内の施設整備等、広く学術活動の充実のために活用される。

### (3) お茶の水女子大学附属図書館との連携(駒場図書館)

令和 5 年 1 月 6 日(金)に、本学と国立大学法人お茶の水女子大学が、教育研究を通じた人材育成および地域社会への貢献に係る連携および協力に関して包括協定を締結したことに基づき、令和 5 年 3 月 31 日(金)、お茶の水女子大学附属図書館と駒場図書館は相互利用に関する覚書を取り交わした。これにより令和 5 年度から、協定に基づく授業の受講者は、相互の図書館で所定のサービスを受けることができる。

### (4) 柏図書館友の会(柏図書館)

東京大学柏図書館友の会は、柏図書館の活動および事業への支援や、会員相互および柏図書館職員との交流の促進を図ることを目的として、平成 20 年度に発足した組織である。

<sup>25</sup> <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/publications>

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、第14回総会(5月)は前年度に引き続き書面により開催された。理事会は11月に臨時理事会がメール審議で行われ、空気清浄機の購入と柏図書館への寄贈(メディアホール用)、会員更新で業務繁忙となる3~4月の友の会事務補助者の雇用を承認した。また、2月には理事会が3年ぶりに集合形式で開催された。友の会と柏図書館が共催する「わくわくミニコンサート」については感染防止対策を徹底の上で令和5年1月16日(月)に開催し、10組出演・101名参加と盛況であった。

令和4年度も友の会会員については柏図書館の一部の利用制限(平日17時以降と土曜日の入館受付不可等)が続いていることもあり、令和5年3月末の会員数は一般会員158名・賛助会員1団体(うち令和4年度新規一般会員17名・新規賛助会員1団体)である。

なお、令和3年3月より、接触を減らすことや現金の管理負担軽減等を目的に、クレジットカード等の利用による会費支払いのキャッシュレス化とウェブでの入会申込みを可能にしたが、令和4年度も順調に機能し、業務の軽減に資している。

#### **(5) 地域の大学図書館等との連携(柏図書館)**

従来、柏図書館は、柏市立図書館並びに柏市内3大学図書館と連携し、ビブリオバトルや企画展等のイベントを実施していたが、令和2・3年度については活動中止となっていた。令和4年度は3年ぶりに市内大学図書館意見交換会が開催され、コロナ禍における各館の状況や今後の会の活動の可能性について話題とした。なお、柏図書館独自の企画として、柏図書館を除く市内3大学図書館のポスターを作成し、各館の学外者サービスの制限等が分かるよう閲覧室入口に掲示した。

#### **(6) 中学生職場体験の受入(柏図書館)**

柏市内の市立中学校1校から中学生2名の職場体験を受け入れ、「生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について、体験したり、働く人々と接したりする学習活動」の場を提供した。中学生職場体験の受入は3年ぶりである。

#### **(7) 大学生のインターンシップの受入(総合図書館等)**

総合図書館では、例年、図書館の関係分野を専攻する大学生・院生のインターンシップ(実習)を実施している。令和2年度、3年度はコロナ禍のため中止したが、令和4年度は感染防止対策をとった上で3年ぶりに実施した。筑波大学および慶應義塾大学の学生3名の参加があり、2週間にわたり、総合図書館での図書館業務実習を中心に駒場図書館、柏図書館、部局図書館・室での見学等を経験した。

### **6.4 教員著作物可視化事業との連携**

平成28年度に開始された「教員著作物の可視化と国際発信」事業(研究推進部学術振興企画課が主管)と連携し、本学教員の著作物を著者自らが紹介するサイト「UTokyo BiblioPlaza」<sup>26</sup>に収載される著作のうち、総合図書館、駒場図書館、柏図書館が未所蔵の図書を合計101タイ

<sup>26</sup> <https://www.u-tokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/index.html>

トル購入し、各館に配架した。同サイトの各著作の紹介ページには東京大学 OPAC の検索結果へのリンクが掲載されており、所蔵・貸出状況が容易に確認できる。また、対象図書の電子書籍 53 タイトルもあわせて購入し、学内ネットワークにより提供を行っている。

総合図書館では、令和 2 年 11 月から、学術振興企画課の協力を得て、「UTokyo BiblioPlaza」掲載図書を中心に東京大学の教員著作を展示する「UTokyo Faculty Works」コーナーを 3 階ホールに設置している。このコーナーでは展示内容を定期的に更新しながら常時 700 冊程度を配置しているが、その多くは表紙を見せ視覚にも訴えるよう心がけている。令和 4 年度には新たに受け入れた教員著作を随時追加したほか、東京大学而立賞<sup>27</sup>を受賞した図書を主とした若手研究者の著作のミニ展示も行った。

駒場図書館では、令和元年度以降 1 階エントランス付近に設置した UTokyo BiblioPlaza コーナーに常に 200 冊程度の図書を配架し、年 1 回入れ替えを行っている。令和 4 年度は令和 5 年 2 月に入れ替えを行い、164 冊を配架した。

## 6.5 学内他部署との連携

### (1) 総合図書館

総合図書館では、平成 27 年度から、障害者集中雇用プロジェクトチーム（施設部施設企画課が主管。以下、「プロジェクトチーム」という。）の建物清掃班の協力の下、定期的な館内清掃等の作業を行っている。令和 4 年度も引き続き、建物清掃班が毎月の休館日に本館の閲覧机および館内 PC 約 70 台、別館ライブラリープラザの机・自動ドア等の清掃を行った。

また、平成 30 年度にプロジェクトチーム分室を図書館内に設け、業務支援班のコーディネーターとスタッフによる図書館業務専門のチームが常駐し、日常的に資料清掃や書架整理を実施している。令和 4 年度は、開架書架の整理と書庫収蔵図書の清掃を毎日の業務として行いつつ、図書資産実査の補助作業も行った。

今後も対象業務の多様化を図り、プロジェクトチームとの協働を深めていきたい。

また、ピアサポートルームからの打診を受け、「ぴあサポゆるっと ART WORKSHOP」第 1 回、第 2 回の作品公開場所として 5 階ラウンジの一部を提供した。

### (2) 駒場図書館

駒場図書館では、平成 27 年度から障害者集中雇用プロジェクトチーム建物清掃班（駒場分室）が定期的な保存書庫の資料・書架の清掃に加え、不定期に館内の PC、閲覧机や開架書架の清掃を行っている。週 1 回、3~4 名のスタッフによる丁寧な作業によって、保存書庫や館内の環境は格段に改善された。このほか教養学部等事務部環境美化チームにも随時、書架の清掃を依頼し、資料保存環境の向上につながっている。両チームの貢献度は極めて高く、今後も連携を継続していきたい。

### (3) 柏図書館

柏図書館では、平成 25 年度から柏地区共通事務センター環境整備チームに書架整理や送付物ラベル貼付、送付物封入作業など様々な図書館業務を依頼している。令和 4 年度も引き続き、

<sup>27</sup> [https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/systems-data/n03\\_kankojosei.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/systems-data/n03_kankojosei.html)

図書資産実査の補助作業、廃棄資料の処理作業、返却図書の書架への配架、清掃作業などを行った。環境整備チームによる業務は、柏図書館にとって強力な業務支援となっており、今後も継続して作業内容を相談しながら業務を依頼し、連携を深めたい。

## 6.6 規則改正等

総合図書館では、利用者の不利とならないように考慮した上で図書館システムで対応可能な貸出条件とするため、令和5年1月27日付けて「アジア研究図書館利用規則」を改正した。

駒場図書館では、以下の規則等と施行・改正をした。

- ・ 「東京大学駒場図書館及び東京大学大学院総合文化研究科図書館における子どもを同伴した学内者の利用に関する要項」を制定し令和4年8月2日より施行した。
- ・ 図書館間協力により借り受けた資料の複写サービス改善のため「東京大学駒場図書館及び東京大学大学院総合文化研究科図書館における図書館間協力による借り受け資料の複製に関する要項」を令和4年12月6日より改正した。
- ・ 「東京大学駒場図書館利用規則」において、駒場図書館利用証は1名の利用者に対し1枚のみ交付することを明記するための改正、および「東京大学駒場図書館利用細則」において、利用証と入館証の違いを明記するための改正を行い、いずれも令和4年12月8日より施行した。

## 7. 附属図書館会議

開催日	会議名称
令和4年	
4月19日(火)	第454回東京大学図書行政商議会(オンライン)
7月12日(火)	令和4年度第1回東京大学柏図書館運営委員会(オンライン)
7月15日(金)	令和4年度第1回東京大学学術資産等アーカイブズ委員会(オンライン)
7月21日(木)	第455回東京大学図書行政商議会(オンライン)
8月2日(火)	第55回駒場図書館運営委員会(オンライン)
9月26日(月)	第456(臨時)回東京大学図書行政商議会(オンライン)
11月18日(金)	第457回東京大学図書行政商議会(オンライン)
12月1日(木)	(臨時)東京大学図書行政商議会(メール会議)
12月8日(木)	第56回駒場図書館運営委員会(オンライン)
令和5年	
1月10日(火)	令和4年度第2回東京大学学術資産等アーカイブズ委員会(オンライン)
1月27日(金)	令和4年度第1回総合図書館運営委員会(メール会議)
3月3日(金)	令和4年度第2回東京大学柏図書館運営委員会(オンライン)
3月7日(火)	第458回東京大学図書行政商議会(オンライン)
3月9日(木)	第57回駒場図書館運営委員会(オンライン)



## 8.全図書館・室統計

### 8.1 職員数、蔵書数、利用件数

2023年3月31日現在

	職員数		蔵書数						資料費 総額 (千円)	受入資料数								館外貸出 (冊)	相互利用 (文献複写)	
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書			逐次刊行物				図書				逐次刊行物					受付 (件)	依頼 (件)
			和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)		和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	(内購入)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)	(内購入)			
大学院法学政治学研究科・法学部研究室図書室	12	5	304,564	549,691	854,255	2,255	3,852	6,107	104,179	3,617	4,938	8,555	4,474	588	718	1,306	835	-	265	131
近代日本法政史料センター (明治新聞雑誌文庫)	3	0	57,782	822	58,604	8,146	39	8,185	82	41	1	42	2	59	0	59	0	-	190	0
医学図書館	10	5	114,211	151,939	266,150	1,720	1,790	3,510	21,136	1,811	98	1,909	1,643	428	27	455	153	14,038	3,666	373
工学・情報理工学図書館	21	6	173,139	237,781	410,920	3,615	3,206	6,821	18,773	1,997	1,331	3,328	1,637	704	118	822	339	32,024	356	55
大学院人文社会系研究科・文学部図書室	7	15	567,011	582,264	1,149,275	9,543	4,133	13,676	51,235	5,375	4,985	10,360	4,055	544	553	1,097	721	10,336	391	410
理学図書館	6	6	42,680	180,417	223,097	1,481	4,443	5,924	15,569	385	736	1,121	335	196	144	340	88	9,025	141	45
農学生命科学図書館	10	4	270,910	194,963	465,873	7,899	5,522	13,421	29,816	3,774	8,124	11,898	894	970	441	1,411	584	11,176	1,062	77
経済学図書館	8	12	521,327	331,566	852,893	11,551	4,727	16,278	33,329	3,487	981	4,468	2,417	483	203	686	284	9,540	194	107
駒場図書館・大学院総合文化研究科図書館	22	13	634,679	509,234	1,143,913	2,386	3,623	6,009	36,905	8,761	3,072	11,833	5,727	812	601	1,413	846	162,889	782	560
自然科学図書室	2	0	11,862	20,816	32,678	137	404	541	309	75	69	144	50	23	6	29	20	3,048	-	104
グローバル地域研究機構 アメリカ太平洋地域研究センター図書室	1	1	9,939	71,395	81,334	141	1,083	1,224	1,474	104	422	526	90	46	51	97	44	945	-	-
大学院教育学研究科・教育学部図書室	4	4	104,084	66,762	170,846	2,937	1,013	3,950	8,095	940	514	1,454	677	376	68	444	444	11,053	342	302
薬学図書館	2	2	14,798	37,111	51,909	414	427	841	1,959	233	98	331	139	76	1	77	10	2,277	89	25
大学院数理科学研究科図書室	2	3	15,976	144,734	160,710	139	1,630	1,769	37,368	121	1,759	1,880	1,760	25	431	456	285	2,633	75	4
大学院情報学環・学際情報学府図書室	2	3	72,117	55,352	127,469	1,360	1,354	2,714	2,340	633	188	821	320	140	38	178	92	3,380	299	20
社会情報研究資料センター	0		12,332	4,421	16,753	0	0	0	1,351	180	15	195	109	0	0	0	0	-	149	0
医科学研究所図書室	2	0	292	137	429	32	13	45	182	45	0	45	36	11	4	15	6	178	101	112
地震研究所図書室	2	1	23,065	37,319	60,384	1,231	1,308	2,539	1,521	172	75	247	54	79	18	97	27	422	14	0
東洋文化研究所図書室	5	5	511,018	195,799	706,817	2,551	6,919	9,470	9,096	2,469	1,484	3,953	2,016	319	606	925	455	173	151	38
社会科学研究所図書室	7	0	216,958	142,271	359,229	5,322	2,250	7,572	16,333	1,606	577	2,183	1,125	580	157	737	281	7,815	94	50
生産技術研究所図書室	2	0	58,971	92,592	151,563	1,070	1,502	2,572	1,047	106	9	115	112	126	7	133	7	919	34	71
史料編纂所図書室	15	0	537,213	16,625	553,838	3,069	286	3,355	7,226	2,003	29	2,032	340	1,482	31	1,513	100	-	151	25
宇宙線研究所図書室	0	1	1,003	23,497	24,500	21	214	235	453	1	5	6	6	11	3	14	12	75	5	2
物性研究所図書室	2	1	7,918	59,966	67,884	99	635	734	9,654	197	252	449	331	33	1	34	31	2,855	32	4
大気海洋研究所図書室	3	1	23,964	36,729	60,693	1,671	1,201	2,872	3,533	152	53	205	127	347	206	553	43	720	31	19
先端科学技術研究センター図書室	2	1	18,540	30,782	49,322	80	414	494	1,476	77	33	110	106	14	1	15	9	1,270	1	20
総合研究博物館図書室	1	1	9,712	2,255	11,967	738	356	1,094	0	305	2	307	0	184	25	209	0	79	0	9
部局図書館(室) 計	153	90	4,336,065	3,777,240	8,113,305	69,608	52,344	121,952	414,441	38,667	29,850	68,517	28,582	8,656	4,459	13,115	5,716	286,870	8,615	2,563
総合図書館	39	16	901,452	491,142	1,392,594	12,390	10,741	23,131	1,718,954	16,661	21,254	37,915	7,040	1,122	206	1,328	188	177,231	2,857	28
柏図書館	5	2	144,530	337,467	481,997	8,294	16,631	24,925	12,042	1,013	448	1,461	1,173	25	5	30	28	16,868	589	20
総計	197	108	5,382,047	4,605,849	9,987,896	90,292	79,716	170,008	2,145,437	56,341	51,552	107,893	36,795	9,803	4,670	14,473	5,932	480,969	12,061	2,611

(公社)日本図書館協会「大学・短期大学・高等専門学校図書館調査」より

(ただし職員数は附属図書館職員名簿(2023年5月8日現在)より/常勤には職域(時間)限定職員を含む)

## 8.2 経年変化

### (1) 蔵書数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2018(平成30)年度	9,745,659	1,296,961	681,053	445,286
2019(令和元)年度	9,808,256	1,308,515	687,934	453,869
2020(令和2)年度	9,854,341	1,330,955	693,124	460,477
2021(令和3)年度	9,914,461	1,355,027	699,977	472,212
2022(令和4)年度	9,987,896	1,392,594	705,909	481,997

(冊)

### (2) 所蔵雑誌種類数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2018(平成30)年度	169,875	21,506	5,841	24,081
2019(令和元)年度	169,965	21,536	5,757	24,386
2020(令和2)年度	169,650	21,473	5,768	24,639
2021(令和3)年度	170,225	21,890	5,920	24,847
2022(令和4)年度	170,008	23,131	6,009	24,925

(種類)

### (3) 資料費総額

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2018(平成30)年度	1,910,033	75,106	29,971	12,087
2019(令和元)年度	1,968,724	62,094	34,291	12,070
2020(令和2)年度	2,030,727	62,302	27,864	11,483
2021(令和3)年度	2,104,759	65,896	28,187	12,900
2022(令和4)年度	2,145,437	60,625	26,335	11,796

(千円)

### (4) 入館者数(延人数)

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2018(平成30)年度	1,825,598	448,547	672,408	39,634
2019(令和元)年度	1,900,623	550,874	706,078	33,694
2020(令和2)年度	373,459	166,088	57,123	13,399
2021(令和3)年度	806,360	377,648	207,018	16,895
2022(令和4)年度	1,250,716	479,412	468,673	16,966

(人)

### (5) 館外貸出冊数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2018(平成30)年度	503,376	135,076	171,140	29,227
2019(令和元)年度	528,522	152,975	178,548	25,715
2020(令和2)年度	302,491	116,312	87,424	14,200
2021(令和3)年度	456,017	172,033	146,863	19,077
2022(令和4)年度	480,969	177,231	162,889	16,868

(冊)

## (6) キャンパス間配送実績

	総件数	取寄せ件数	返却のみ件数
2018(平成30)年度	109,714	47,528	14,658
2019(令和元)年度	112,640	48,429	15,782
2020(令和2)年度	62,363	26,505	9,353
2021(令和3)年度	119,466	49,265	20,936
2022(令和4)年度	138,839	55,845	82,994

(冊)

## (7) ウェブサービス等アクセス数

	東大OPAC (検索回数)	附属図書館 ウェブサイト	GACoS	Literacy
2018(平成30)年度	5,371,135	761,933	728,711	—
2019(令和元)年度	5,767,232	760,965	756,726	—
2020(令和2)年度	4,255,151	737,183	957,590	—
2021(令和3)年度	4,304,685	965,858	693,607	230,300
2022(令和4)年度	4,888,181	1,094,943	—	332,130

(回)

※2017年9月に附属図書館ウェブサイトを全面リニューアル、統計項目とデータ取得方法を変更

※2021年8月に学術情報にアクセスするためのポータルサイトGACoSは、Literacyへリニューアル

## (8) 電子ジャーナルダウンロード数

	CUP	Science	OUP	Springer Nature	Wiley- Blackwell	Elsevier
2018(平成30)年度	34,390	224,697	235,252	1,521,795	711,781	2,792,472
2019(令和元)年度	27,244	149,344	122,454	1,072,442	589,101	1,329,439
2020(令和2)年度	22,641	223,009	104,109	1,026,052	556,613	1,299,899
2021(令和3)年度	26,685	140,443	138,422	1,192,758	640,983	1,508,520
2022(令和4)年度	30,974	153,567	152,586	1,218,584	663,449	1,563,053

※2018年はCOUNTER 4準拠、2019～2022年はCOUNTER5準拠の数値

(2019年の数値はCOUNTER5で集計し直したもの)

## (9) 電子ブックアクセス数

	Maruzen eBook Library	Springer	Elsevier	OUP	CUP*1	Wiley*2	ProQuest	EBSCO
2020(令和2)年	103,314	67,879	49,712	12,176	19,924	40,440	7,783	3,408
2021(令和3)年	84,482	77,543	38,961	16,069	65,614	8,673	9,126	8,727
2022(令和4)年	80,993	87,966	40,890	31,852	52,633	9,611	9,427	6,646

※原則としてCOUNTER5準拠の数値／プラットフォームにより統計基準が異なる場合がある

※\*1 CUPは2021年3～9月にEBAを実施した

※\*2 Wileyは2021年に統計基準の見直しがあった

## 【参考情報】図書館関連統計情報の公開サイトについて

・附属図書館 統計表

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/about/statistic>

・主要情報サービス利用統計(情報システム部情報基盤課学術情報チーム)

<https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/stat/index.html>

## 東京大学附属図書館

2023年8月8日発行

編集・発行 東京大学附属図書館

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

電話 03-5841-2613(総務課企画渉外チーム)

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>